

これからの梨の栽培管理について（第3号）

（東老田、中老田、南部、射水市版）

令和5年4月21日
呉羽地区果樹組合連合会
なのはな農業協同組合

1 梨の生育状況

(1)開花期

本年の開花期は、3月の気温がかなり高かったこと等から、全ての主要品種で平年をかなり早まりました（表1）。

(2)気象被害等の発生状況

- ・現在、晩霜による被害は見られません。4月末頃までは晩霜害が発生しやすい時期が続くので、引き続き気象情報等に注意してください。
- ・4月8日に、一部地区で降霰（アラレ）がありましたが、葉や花弁に破れや傷あとがほとんど見られず、果実への影響は小さいと思われます。
- ・4月11日に、フェーン現象（乾燥した高温の風）に伴う花の萎れや花弁・葉の焼け症状等が多数発生しました。重度に萎れた花の中には回復が見込めないものもありますが、ほとんどの花はその後回復・結実しています（写真）。

表1 令和5年 呉羽地区日本なし開花状況

（吉作平場基準）

品種名	開花始め			満開		
	本年	前年比	平年比	本年	前年比	平年比
幸水	4月6日	▲6	▲11	4月10日	▲6	▲10
豊水	4月3日	▲7	▲10	4月5日	▲7	▲12
あきづき	4月5日	▲6	▲9	4月9日	▲4	▲7
新高	3月31日	▲9	▲11	4月3日	▲8	▲11

▲は早いことを示す（例：▲6は「6日早かった」）。



写真 花そうの萎れ(上:4/12、下:4/17)

2 1回目摘果作業の留意点

- ・十分な結実が見込める場合は、満開30日後を目安に1回目の摘果を終了するよう作業を進めてください。
 - ・フェーンによる結実不良やアラレ等による傷果が多い場合は、結実状況や果実の状態を十分確認した上で摘果作業を行ってください。
- ⇒結実量が少ない場合は、通常は摘果するような奇形果や傷果等も残し、新梢の過繁茂や強樹勢化を防ぐ。ただし、黒星病等のり病果は、必ず摘除する。

3 コンフューザーNは確実に設置しましょう！

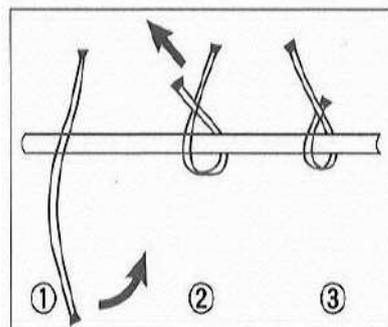
現在のところ、ハマキムシ類、シンクイムシ類の発生は概ね平年並みの見込みですが、越冬世代の発生が早まっており、また、一部地域ではシンクイムシ類の越冬世代成虫の発生がかなり多くなっています。「コンフューザーN」はこれら害虫の被害防止に大変有効な資材ですので、なるべく早期に、必ず設置してください。

(1) 設置方法（右図）

- ①設置本数：150本/10a
（設置本数が少ないと十分な効果が期待できません）
- ②設置時期：4月22～26日
- ③設置間隔：約2.6m間隔
（3間植えの園地では1樹当たり4～4.5本を設置）

(2) 設置上の留意事項

- ①ほ場の外周は多めに設置し、単独園や道路等に面している園では、外周の防風ネットを張り成分の飛散を防止する。
- ②ほ場内に未成木樹や間伐等で樹の植わっていない場所があっても、これらの場所を含めほ場全体に設置する。
- ③傾斜地では斜面上側を多めに、下側は少なめに設置する。
- ④周辺にモモやウメがある場合には、これらも含めて設置する。



梨棚の番線に巻きつけてから、一端を輪にくぐらせて固定してください（強く引っ張り固定すると端が切れる恐れがあるので、注意して下さい）。

図 コンフューザーNの設置方法

4 これからの防除について

黒星病の伝染源の一つである落葉からの子嚢のう胞子は、4月上旬頃から本格的な飛散が始まっています。防除は「降雨前」、SSは「低圧、低速、全列走行」を心掛け、散布ムラがないように努めてください。

回数	散布月日	薬剤名と希釈倍数	散布量	主な対象病害虫	防除実施日 (自己記入)	
特	4月22～26日頃	コンフューザーN	150本/10a	リンゴコカクモンハマキ、モモシクイ、ナシヒメシクイ		
6	4月27～29日 (落花10日後)	オーシャイン水和剤 トレノックスフロアブル ハチハチフロアブル	4,000倍 500倍 2,000倍	300 リットル	黒星病、赤星病、心腐れ症(胴枯病菌) ニセナシサビダニ、アブラムシ類、クワコカイガラムシ	
7	5月5～7日 (小豆大)	ユニックス顆粒水和剤 47 トレノックスフロアブル サイアノックス水和剤	2,000倍 500倍 1,000倍	300 リットル	黒星病、赤星病、黒斑病 心腐れ症(胴枯病菌) シクイムシ類、ハマキムシ類 アブラムシ類	
8	5月13～15日	デランフロアブル	1,000倍	300 リットル	黒星病、赤星病、輪紋病 心腐れ症(胴枯病菌)	
9	5月21～23日	ベルコートフロアブル アプロードフロアブル	1,500倍 1,000倍	300 リットル	黒星病、輪紋病、 うどんこ病 カイガラムシ類幼虫	
10	5月29～31日	オキシラン水和剤 ファルコンフロアブル トランスフォームフロアブル	600倍 6,000倍 2,000倍	300 リットル	黒星病、輪紋病 ハマキムシ類、ケムシ類 カイガラムシ類、アブラムシ類	

- ①【重要】コンフューザーNの設置は、必ず実施してください。
- ②アブラムシ類の発生(葉を内側に巻いて加害する)が見られたら、早めにアドマイヤー水和剤(2,000倍)を散布してください。
- ③梨園に隣接して植えられているモモ、ウメの「心折れ」は、ナシヒメシクイの発生源となるので、速やかに切除し、園外に持ち出し適切に処分してください。
- ④カメムシ類の常発園、シクイムシ類多発園では、アクタラ顆粒水溶剤(2,000倍)を散布してください。
- ⑤ハマキムシ類の発生が多い園では、8回目のデランフロアブルにカスケード乳剤(2,000倍)を混用してください。
- ⑥散布に当たっては、希釈倍数や対象病害虫など、農薬容器のラベルを必ず確認してください。
- ⑦周囲の他作物や住宅等への飛散防止に努めてください。特に通学路に面した園地では、登下校時の時間帯を考慮して散布してください。また、防除開始時間は、午前5時以降としてください(午前4時台にSSのファンを回さないでください)。
- ⑧天候等の都合により防除間隔が10日以上空かないよう十分注意してください(10日以上空くと農薬の残効が切れ黒星病の感染リスクが高まります)。雨天が予想される場合は、降雨前散布を心掛けてください。
- ⑨黒星病の芽基部病斑や病葉・果実は、見つけ次第、速やかに切除し、園外に持ち出し適正に処分してください。
- ⑩9回目のアプロードフロアブル、10回目のトランスフォームフロアブルは、カイガラムシ類に有効な殺虫剤です。薬剤の効果をより高めるため、カイガラムシ類の付着が多い箇所をワイヤーブラシ等で削り落とすとともに、交配樹の立枝の切り下げや間引きを行い、薬剤をかかりやすくしてください。